

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名：地産地消費らしの魅力発見事業

■コーディネーター氏名・所属：吉島 隆子(特活)コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」

■ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年3月3日

1. 協働のプロセスについて意見

3年間の事業についてのふりかえりであったという説明があったが、当初の目的や成果(ゴール)、役割分担を十分に話し合わなかったか、あるいは行政としての指針・ビジョンが示されないままに協働ありきで事業に取り組まれたのではないかという印象を受けた。

意見交換はしているということだが、事業の目的やめざすところが明確になっていなければ建設的な意見交換の場にならないのではないかと思った。熱心な市民側メンバーであるだけに、徒労感に終わってしまったのは折角の事業も労力、コストともにもつたないし、何より市民の信頼を失いかねない。市民側の意見をうかがいながら、市民の「おもい」も十分に生かしきれていないのではないか、かみあった議論になっているのだろうかという疑問を感じた。

2. 成果についての意見

前述したように、何を成果とするのか、目先のイベントの参加者数といった短絡的な目標で果たしてよいのか、どのような方針でどういう戦略をたてるのか、そのためには何が必要であるのか、まずは事業の骨格を明らかにすべきである。担当者の説明からは事業の意図や明確な目的を理解することができなかった。

3. 課題・改善の整理とまとめ

事業の原点に戻り、目的、めざす成果など、初期の議論をきちんとすべきである。枝葉の議論ではなく本質論をふまえたうえでの事業展開を考えることが求められているのではないだろうか、今後の軌道修正に期待したい。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

事業担当者の方にも「ふりかえり会議」そのものについての認識を持ち、理解いただいたうえで臨んでいただきたい。

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名：地産地消暮らしの魅力発見事業

■コーディネーター氏名：中盛 汀

所属：W.T.A まちづくりセンター

■ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 3 日(木)

1. 協働のプロセスについて意見

「地産地消ネットワークみえ」のもとに、「地産地消ネットワークみえ・北勢」がたちあがったのだと思っていたら、食育セミナーに参加した方々から、このまま終わるのはもったいない、との声が上がリ、団体となり、「地産地消ネットワークみえ・北勢」と名づけた、とのこと。会員は13人いるものの、月1回の会議に集まるのは半数ほど。年に何かをするということから、地産地消セミナーを開催。今年度で3回目。ただ、会の発足から現在に至るまで、たくさん問題点が出された。予算の出し方に対する不満や事業のあり方など、問題点について取り残したまま十分な意見交換がなされずに現在まで来ているような印象を受けた。

2. 成果についての意見

年間の予算はイベントを一つすると終わり、とのこと。イベントの内容自体は一緒に考えたようだが、そこから広がりがないような意見が出されたように思う。もともと会を立ち上げたときには居たという消費者も実際につき1回の集まりを続ける中では参加しなくなったよう。イベントに食べ物をつけると人は集まるが、主催者側はお金が出ててもしんどい、また、それだけでは続けて行くには限界がある、との意見も出された。セミナーではアンケートもとられて、それを受けてバスツアーなどを企画した、との話も出たが、まず地産地消ネットワークみえ・北勢自体のあり方の十分な話し合いから次の展開に進めるのではないか。

3. 課題・改善の整理とまとめ

いい関係があるようにも思うが、実際にはまだまだ意見交換が不十分なため、発展的な納得のいく展開ができていないように思う。また、参加者自体が疑問を抱いたまま、現在に至っていることも、会として月1の集まりを続けている中에서도っと早くからいい情報交換や意見交流ができなかったものか、ともったいない気がする。自立については今のままでは無理との意見も出されていたが、県がもともとこのネットワークのもととなる「地産地消ネットワーク」を呼びかけ、立ち上げた思いをしっかりと伝えきれて

いたのか、また、県民局とのかかわりの中でもうまく共有されていなかったように思うので、担当者間のつながりも深める必要があるように思う。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

ふりかえり会議の事業自体とチェックシート、資料などにズレがあった。また、行政サイドの直接の担当者が県、市ともに不在だったため、はっきりとした意見などは聞けなかった。資料として提出されていた事業のふりかえりというよりは、「地産地消ネットワークみえ・北勢」の3年間の立ち上げから現在までのふりかえりとなったことを明記し、意見シートはそれをメインに書いた。ふりかえり会議の前にはしっかりとチェックシートやふりかえり会議の意味などの説明と周知を徹底することと、あわせて、関連資料をそろえてもらう中で再度の確認が必要。

また、県内にもいくつか、同様のネットワークが立ち上がっているが、その辺りのつながりがあるのかないのか、いまいち分からなかった。早くに立ち上がった北勢の話は聞こえては来ていたが、県民局の担当者間の情報交換の中でか、間違っような情報が流れており、「中間支援組織に事務局を」との話が伊賀のほかにも桑名でもあったそう。確認したら、四日市の場合、きちんと事務局費が出されていた、とのことだったが、間違っ情報の中では「無償で」という話だったので、このあたりは実質経費がかかるということをしかりと理解しておいてもらいたい。自立を目指すとしても、何かまだ工夫が足りない気がする。そこに自立に向かえない課題があると思うので、ぜひ県内のネットワークでの情報交流や実際の交流なども展開してほしいと思う。